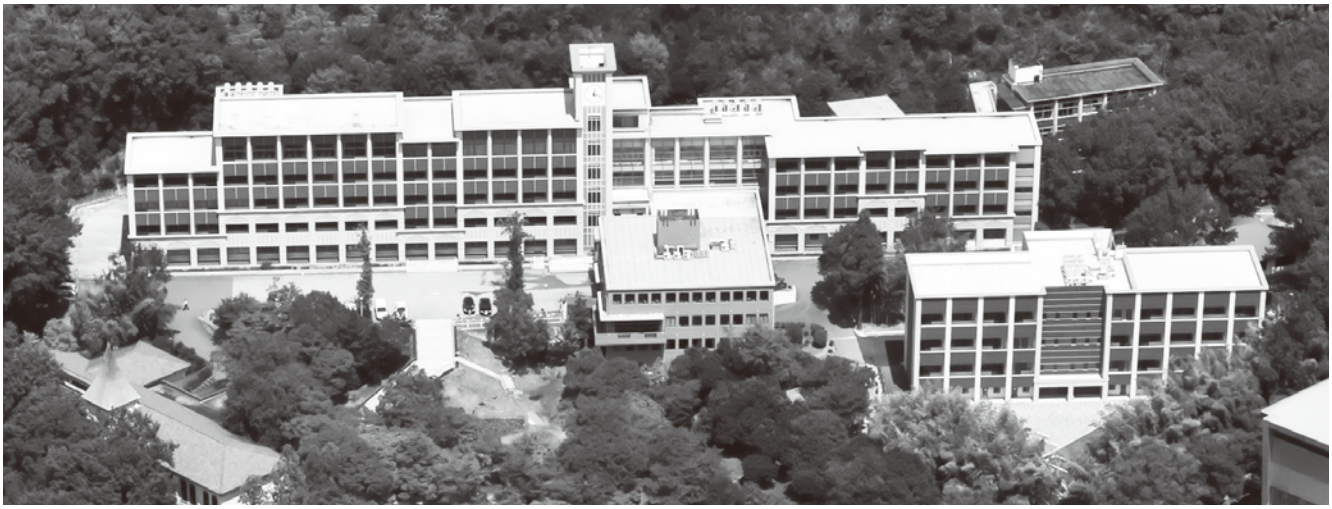
No.39 R2.3　発行 白陵会

Alma Mater 白陵

■白陵会事務局　〒676-0827 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260（白陵高等学校内）　TEL.079（447）1675(代)　FAX.079（447）1677
URL:http://www.hakuryokai.jp　E-mail:info@hakuryokai.jp



会長挨拶

会　長
天野泰文

早春の候、白陵同窓会会員の皆様におかれましては益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。また、平素は本会活動にご協力を賜り心より感謝申し上げます。さて、本稿執筆中の二月末現在、武漢で発生した新型コロナウイルスが本国においても患者が発生していることを連日マスコミで発表されており、更には東京マラソンの一般参加や姫路城マラソンが中止になるなど大きな影響を日本国中に及ぼしています。本会報がお手元に届くころには一連のコロナウイルス騒動が収まっていることを期待しています。

白陵会関係につきましては、昨年の会報でご報告したとおり、令和元年六月二十二日姫路商工会議所において臨時総会が開催され、年額三,〇〇〇円の年会費制度及び通年白陵会総会開催の定款変更が可決され、本年四月一日より実施されることとなりました。今後は十分な財源を確保し、更なる本同窓会活動を活性化すると共に、卒業各期同窓会、各クラブOB会、在校生クラブ活動等の援助を行ってゆきたいと考えていますので、会費納入にご協力くださるようお願い申し上げます。

また、本年は同窓会発足五十五周年にあたり、前回の創立五十周年記念総会と同様に、別途ご案内のとおりホテルモントレ姫路において午後四時より記念総会開催を予定しています。総会にはNTT東日本社長の井上福造氏（九期）の講演会、恩師・旧友と懐かしい交流、楽しいアトラクションも予定しています。会員の皆様におかれましてはお忙しいところ振るって総会に参加くださるようお願いいたします。

また、昨年十二月には同窓会事業の柱のひとつである五年に一度の同窓会名簿が発行されました。同窓会名簿は、同級生、先輩後輩、クラブ仲間などの動静が一目でわかる貴重な卒業生の資料であると考えております。ただ、昨今の個人情報問題を抱え、名簿発行はどの同窓会も苦慮しているところですが、名簿発行業者によりますと、白陵会名簿の返信回答率は非常に高いとのことで、かなり精度の高い同窓会名簿が出来上がったと自負しております。本同窓会名簿を手に取りお互いに連絡を取り合い、恩師の先生方をお招きした各期の同窓会・クラブOB会など活発に開催されることを期待しています。また、多数の協賛広告を戴いた同窓生の皆様には心より感謝申し上げます。

白陵同窓会は、今後同窓生・母校のために絶えまぬ努力と活動をおこなう所存ですので、ご理解・ご協力くださるようお願い申し上げます。

思わぬことなれど

理事長
斎藤 興哉

こんな形で同窓会の皆様にご挨拶することになろうとは、全く思ってもいませんでした。令和元年の役員会では一部の方々にお目にかかりましたが、改めて、こういうことになりましたのでよろしくお願いします、ということです。

これも今更めいていますが、私は公立高校を定年退職後の、平成十四年四月から白陵にお世話になり、十八年が過ぎようとしています。どういう学校に行こうとも、教師として生徒に行ることは同じだというのが私の考えで、それは今も変わっていませんが、白陵での生活はまさに教師冥利に尽きるものでした。そのありがたさは何にも替えがたいもので、それが私にとっての白陵のすべてと言っていいものです。

今回、私は思いもかけず理事長などという立場になってしまい、その重責はひしひしと感じていますが、特に新しく見えてきたものを意識することはありません。むしろ強くなっているのは、白陵生・卒業生の特長は校訓・校是によってずっと培われているのではないかということです。すなわち、研究と訓練、独立不羈の姿勢は、常々全力で取り組み、自分を持してがんばっている卒業生の姿にいつも現れているのではないかということです。それは、亡き学園長の目指したものが脈々と持続しているということでしょう。

一方で、人として、どんなことでも広く調べ、考えて、自分はこう思い、こうしたいと断ずることは極めて大切です。白陵はその根幹は保ちつつ、変わるべきときには大胆に変化してきました。中学における男女共学もロンドンへの修学旅行もそうであり、今回の制服改定もその一つです。令和二年度からは、中学は新制服になり、高校は実質通学服の自由化となります。

こういう自由さ、思い切った決断が白陵のもう一つの特長と言っていいでしょう。

人が何に出会うかと言うと、自分の出会いたいものにしか出会わないという言葉があります。同じように、学校でも人でも、選ぶものはそれなりに必然性があるものですが、それは好きなものを選んでいるのです。そして、それに命を吹き込む工夫をすることが大事で、それによって確固たるものになります。

成熟の時代を迎えつつある白陵、今世の中は新型肺炎等で大変な状況ですが、これからも学校と同窓会・育友会・後援会が一体になって進んでいきたいと思っています。

「迷走」vs「改革」

校 長
宮﨑 陽太郎

同窓会の皆様におかれましては、日頃から本学園の教育活動に対し、温かい御支援、御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

二〇二〇年になりました。日本はこのところ、三〇年ほどで大きく時代が変わるようです。それぞれの期間を大雑把に表現すると、一九三〇年からの三〇年は「戦争の時代」、一九六〇年からは「経済発展の時代」、一九九〇年からは「迷いの時代」、といったところでしょうか。白陵に目を向けると、一九六〇年からの二つの期間が、その歴史とほぼ重なり、前半が「創造の時代」、後半が「改革の時代」、と言えます。日本が迷走した一九九〇年からの三〇年間、世界はどうだったのでしょう。冷戦の終結で平和になると思いきや、クリミア問題、中距離核戦力全廃条約の破棄、テロの頻発、内戦による難民の続出、米中貿易戦争など、世界のトレンドは協調から対立と分断へ、そして、不寛容と自国ファーストへと突き進んできました。その間、白陵では迷わず、さまざまな改革をしてきました。

さて、「日本の迷走」と「白陵の改革」とでは、質的に、大きな違いがあります。日本の迷走が、統治機能の「継続性の無さ」と「閉塞性」による経年劣化と軌を一にするのに対し、白陵の改革は、過去の歴史を引き継ぎ発展させるものとしての改革でした。この差は、今後の白陵の在り方において、大きな意味を持ってくると思います。IT技術やAIによる処理の高速化、最適化がなされたとき、パラダイムの変革が起こるとも言われていますが、本当でしょうか。流布する言説を、その出処を自分の目で確かめて、本当に正しいのかどうかを考えるのではなく、盲目的に信じてしまうか、頭ごなしに拒絶してしまう昨今の風潮の中では、たとえ技術革新があっても、本質的なパラダイムの変革はあり得ません。教育には、時代によっては変わる部分と、時代が変わっても変えてはいけない部分とがあります。この四月から、高等部では、「制服着用を求めない」となりますが、それは、かつて旧制高校生たちが愛読したであろう『学生に与う』(河合栄治郎著)にある、「他律の良さを自覚した時、既に他律ではなく自律である」という文脈から離れるものではありません。

人間が自分の後姿を自分の目で直接見ることはできないように、白陵の中にいるものには、白陵の歩む姿のすべてが見えるわけではありません。白陵が迷走しないためにも、卒業生の皆様には、白陵を様々な角度から見守っていただき、ご助力いただければ幸いです。

大学入学試験合格者数

国公立大学

大学名	31年	30年	29年	28年	27年
東京大学	15	18	11	16	22
京都大学	23	16	28	15	13
大阪大学	13	13	15	19	30
神戸大学	20	14	12	17	15
東京工業大学	2		2	3	2
一橋大学	1	1	2	1	1
岡山大学	8	9	10	11	10
その他	90	94	85	74	83
合格者計	172	165	165	156	176
内医学部医学科計	62	49	52	38	37

私立大学

大学名	31年	30年	29年	28年	27年
早稲田大学	25	15	24	26	21
慶應義塾大学	21	19	21	18	15
東京理科大学	8	6	15	10	18
関西学院大学	12	16	20	9	24
関西大学	4	8	10	5	12
同志社大学	44	43	40	29	38
立命館大学	15	23	20	17	16
その他	125	116	90	66	101
合格者計	254	246	240	180	245
内医学部医学科計	45	59	46	32	39

※「国公立大学合格者計」は準大学を含む

白陵会役員名簿

役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名	役名	期	氏名
会長	3	天野 泰文	常任幹事(広報)	8	前川 裕司	常任幹事(総務)	35	阪本 覚	常任幹事(総務)	52	稲垣 大翔
副会長	2	湖中 明憲	〃(総務)	9	手井 幸男	〃(研レ)	36	近藤 理恵	〃(総務)	52	冨木 琴乃
〃	10	服部 博明	〃(研レ)	10	加藤 雅宣	〃(HP)	36	杉岡 央基	〃(総務)	53	岡田 弦大
〃	15	町田 直隆	〃(総務)	12	西庵 利彦	〃(総務)	37	岸上真紀子	〃(総務)	53	後藤 真由
理事(研レ)	3	神吉 裕資	〃(研レ副委員長)	13	矢野 善人	〃(HP)	37	亀山 信生	〃(総務)	54	佐々木仁哉
〃(会計・総務)	4	岸本 和男	〃(総務)	14	片山 安孝	〃(総務)	38	上野 紘之	〃(総務)	54	篠田 侑果
〃(HP委員長)	6	長野総一郎	〃(総務)	14	竹中 邦夫	〃(総務)	38	堀 素史	校内幹事(総務)	3	黒田 洋
〃(総務)	8	黒川 仁	〃(総務)	16	田中 正一	〃(HP)	38	住吉 寛紀	〃(総務)	11	小紫 一貴
〃(研レ)	9	村角 伸一	〃(総務)	18	秋田 直樹	〃(総務)	39	堂國久美子	〃(総務)	12	畔上 昇
〃(研レ委員長)	10	吉田 達哉	〃(総務)	19	牛尾 英樹	〃(総務)	39	根木 厚	〃(総務)	12	山口 透
〃(研レ)	10	下村 康夫	〃(総務)	21	河合 恵介	〃(総務)	40	赤澤 剛	〃(総務)	12	中村 大吾
〃(広報副委員長)	11	志方 正彦	〃(研レ)	22	野津 康弘	〃(総務)	40	廣江 祥子	〃(総務)	14	久保 博彦
〃(総務)	11	来栖 昌朗	〃(研レ)	23	中里 寛	〃(総務)	41	竹内 雅浩	〃(総務)	15	村上 幸生
〃(広報委員長)	13	水田 堅	〃(総務)	24	奥本 光廣	〃(広報)	42	賀川 拓哉	〃(広報)	15	西 善弘
〃(総務)	13	飯島 義雄	〃(総務)	24	藤原 省悟	〃(HP)	42	宮﨑はる香	〃(HP)	37	神尾 祐輔
〃(総務)	15	福永 安洋	〃(総務)	25	多根 正明	〃(HP)	43	八杉 佳奈	〃(総務)	39	石岡 知久
〃(総務委員長)	17	岡野 清和	〃(HP)	26	大西 康記	〃(総務)	44	立田 裕昌	〃(HP)	39	清水美沙子
〃(会計・HP)	19	尾上 尚樹	〃(総務)	27	山田 将義	〃(総務)	44	三木 綾子	〃(総務)	42	小川 裕人
〃(総務)	20	石井 秀武	〃(広報)	28	柿本 晴彦	〃(総務)	44	上月 理加	〃(広報)	43	野瀬 彩弥
〃(総務)	23	譜久山 剛	〃(総務)	28	上山 奉伯	〃(HP)	45	三浦 学登	〃(広報)	46	川口 澄恵
〃(研レ)	26	萩原 唯典	〃(HP)	29	岡田 康裕	〃(総務)	45	向原 沙紀	〃(総務)	49	福永 航平
〃(総務)	29	山下 展成	〃(研レ)	29	浜田賢太郎	〃(HP)	46	藤本 美希	顧問(理事長)		斎藤 興哉
〃(研レ)	35	中村 亮太	〃(HP)	30	上新 貴弘	〃(総務)	46	宮脇 規壽	〃(校長)	11	宮﨑陽太郎
書記(総務)	44	山田 祥五	〃(研レ)	31	後藤 大悟	〃(総務)	47	戎 直哉	〃(教頭)		髙見 繁統
会計監査(広報)	23	三木 健史	〃(総務)	31	酒井 雅史	〃(総務)	47	中谷 英巴	〃(特別参事)	2	川副 義文
〃(研レ)	35	安田 孝弘	〃(総務)	31	木下 智晴	〃(総務)	48	井上 千華	〃(元会長)	1	遠山 寛
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	〃(HP)	31	村山 稔	〃(総務)	48	建石 真一	〃(元会長)	1	黒坂 康夫
〃(広報)	1	正井 和野	〃(総務)	32	酒井 勇人	〃(総務)	49	立石裕之輔	〃(元会長)	1	黒川 芳一
〃(研レ)	4	森崎 晴知	〃(総務)	32	小澤有紀子	〃(広報)	49	橋本 端季	〃(前会長)	3	沼田 好道
〃(総務)	5	塩崎 育男	〃(総務)	33	藤井 拓郎	〃(総務)	50	池上 学歩	〃(前副会長)	6	上田 喜裕
〃(研レ)	5	橋本 義仁	〃(総務)	33	北尾由美子	〃(総務)	50	津田 彩花			
〃(研レ)	6	大﨑 章快	〃(広報)	34	上垣 孝俊	〃(総務)	51	佐々木優一			
〃(総務)	7	萩本 義郎	〃(総務)	34	牧野 琢丸	〃(HP)	51	笹久保茉奈			

(令和元年6月22日現在)

二〇二〇年 白陵会記念総会

とき

令和二年六月十三日(土)
午後四時～午後八時
受付開始 午後三時三〇分

ところ

ホテルモントレ姫路
3F「ルツェルナ」

参加費

一期～四十五期 … 八、〇〇〇円
四十六期～五十期 … 三、〇〇〇円
五十一期～五十五期 無 料

◆若い卒業生にも参加して頂きやすいよう、期別に会費を設定しました。どうぞご理解の上、たくさんのご参加をお待ちしております。

総会プログラム

15:30～	受付開始
16:00～16:30	総　会
	1．開会の辞
	2．黙　　祷
	3．会長挨拶
	4．来賓挨拶
	5．事業報告
	6．閉会の辞
16:30～17:30	講演会
	「情報通信による地域活性化の可能性」
	9期生　井上 福造 氏
18:00～20:00	懇親会
	1．会長挨拶
	2．来賓挨拶
	3．乾　　杯
	4．母校近況紹介
	5．アトラクション
	6．校歌・白陵歌斉唱
20:00	閉　会

会場案内図

同封の出欠返信ハガキ(料金受取人払)は、4月25日(土)までにご投函下さい。
尚、近況報告や住所・氏名等に変更のある方は表面の「通信欄」にご記入をお願いします。

白陵高校東京同窓会のお知らせ

令和二年六月二十七日十三時頃より東京都内（場所未定）にて白陵高校東京同窓会を開催予定です。ご案内の送付希望の方は、先のアドレスにご連絡下さい。
info@tokyo-hakuryo.com

55周年記念講演会

演題 情報通信による地域活性化の可能性

（9期生）
井上 福造

NTT東日本は一九九九年に設立され、昨年二十周年を迎えました。設立当時の主力事業である固定電話サービスは年々縮小が続く一方で、二〇〇一年に提供を開始した光サービスは、ブロードバンドニーズの高まりを受け、現在では全国で二一一〇〇万以上のお客さまにご利用いただいています。

そして時代は“Society5.0”へ向かおうとしています。少子高齢化の中、労働力人口は減少、地域は人手不足や後継者不足により、新たな困難に直面しています。

こうした地域の担い手不足を補完するために注目を集めるのがAIやIoT等の新技術。NTT東日本がICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）や新技術を活用することで、地域が抱える課題を解決し、地域活性化に貢献していくための新しいチャレンジについてご紹介したいと思います。

プロフィール

昭和三十年七月六日生（64才）
出身地　兵庫県
学　歴　東京大学法学部卒業
略　歴　昭和55年　日本電信電話公社入社
平成11年　エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
ビジネスユーザ事業部企画部担当部長
平成14年　同　総務部広報室長
平成16年　同　経営企画部担当部長
（株式会社インターネットイニシアティブへ出向）
平成18年　東日本電信電話株式会社　コンシューマ事業推進本部
ブロードバンドサービス部長
平成21年　同　取締役
コンシューマ事業推進本部ブロードバンドサービス部長
平成25年　同　取締役　ビジネス開発本部長
平成28年　同　代表取締役副社長　ビジネス開発本部長
平成30年　同　代表取締役社長

※年齢は、2020・2末現在

次のステージへ

生徒部長
岡野清和（十七期生）

令和二年二月十一日、五十五回目の卒業式が挙行されました。一八六名が母校を巣立ち、卒業生数は九五一二名となりました。思えば、前回の東京オリンピックの前年に一期生を迎えた白陵は、二回目の東京オリンピックの年に大きな一歩を踏み出すことになりました。令和二年度より、中学生は、制服が一新され、高校生は、制服、私服の選択が自由になります。つまり、制服は着ようと思う者が着る、そうでない者は各自が学校生活に相応しいと思う服装で学校に行くということです。卒業生の中にはこれを聞いて、母校が母校でなくなるのではないか、伝統はどうなるのか、と憂慮される方も少なくないと思います。

故三木省吾学園長が日本一の学校を目指し、文字どおり教育に命をかけて突っ走った二十年間は、教養主義を掲げながらも、徹底した生徒指導と猛烈な教科指導がすべてと言ってよい期間でした。その指導が順調に進学成果と結びついていく中で、徐々に生徒自身の判断を尊重する側面も備わるようになっていきました。平成十年には中学も共学になり、学園の雰囲気もより明るいものになります。そして何より、校則を守らせ、学業に専念させるために体罰をも辞さなかった指導に終わりを告げることで、学校の雰囲気は一気に明るく、健全なものになったように思われます。それにより、生徒と教職員の関係もより親密で自然なものになり、お互いに対する信頼をベースとした関係が成り立ってきました。

現在、学園創成期を経験した卒業生でもある宮﨑校長が就任4年目となり、新しい体制が軌道に乗りつつあります。そして、校内の教育環境が整い、若手中堅教職員の層も厚くなり、各種研修会も活発に行われ、学校全体として次代の学校の姿を考える意識が高まっています。それ故、生徒と教職員の信頼関係が確立し、かつ、新しい白陵の中で育ってきた教職員と創成期の白陵を知る教職員がバランスよく存在する今のタイミングこそ、学校が次のステージに向けて舵を切る最適の時であると思われるのです。すなわち、「研究と訓練」のみでなく、「独立不羈」・「正明闊達」という校是を意識した教育で、より豊かな感性を持ち、自分の思いを尊重し、自らを磨いていく生徒を育成する段階に達したのです。

卒業生の皆様には、白陵の未来を見据えたこの大きなステップをお見守りいただき、応援いただきますことを心から願っております。

同窓会誌　五十七期生キャリア研修

高校一年学年主任　打浪　真佐一

五十七期生は中学入学時から、在学中の学習指導のみならず大学・学部、さらにその先の仕事までを視野に入れた進路指導をしていこうと考えました。主にLHR・特別授業などの時間を利用し、中学部からキャリア教育に力を入れてきました。最初は面談やNHKの『プロフェッショナル』鑑賞で仕事に関する意識を高めようとしましたが、効果は十分とは言えませんでした。そこで考えついたのが、卒業生に仕事に関する講演をしてもらうことでした。中学二年の十二月から中学三年の三月までの期間に合計十八回・二十二人の卒業生に、仕事の内容とやり甲斐をテーマに講演をしてもらいました。

卒業生は在校時の思い出や、パワーポイントを使用したわかり易い説明など、かなり準備に時間をかけた上で講演をしてくれました。講演後の質疑応答も活発におこなわれ、毎回実りあるものになりました。

高校一年では一学期の六月十五日（土）三限・四限に七名の卒業生を招き全体での自己紹介の後、七つの部屋に分かれて講演をしてもらいました。在校生には事前にどの方の話を聞くかを選ばせました。事前に生徒の中からキャリア委員を募集し、この二十三名の委員が中心になり、生徒自身が各会場で卒業生の講演と質疑応答の司会進行や記録をおこないました。翌週のLHRでは各講演内容を、他のグループにわかり易く説明しあう情報交換会をおこないました。

この経験を踏まえて、七月二十三日（火）から二十五日（木）の東京でのキャリア研修を学年全体（参加者一九一名）でおこないました。この研修は次の四つの目標を掲げ活動を開始しました。

（1）卒業生との交流により様々な面における興味関心を持ち、総合的・探求的な学習を深め、「人間」としての幅広い成長を育む。また、価値観や生き方などについて考える機会を持つことで向上心を高める。

（2）首都東京を訪問し、これまでのキャリア教育での学びをふまえ、進路選択（大学・学部・その先の仕事）に関する新たな目標を持つ契機にする。

（3）卒業生が勤務する官公庁・企業・研究所（室）への訪問や、卒業生の講演などでの交流を通して肌感覚で仕事・職業に関する内容ややり甲斐を知り、理解を深める。また、それを高校二年進級時の文理選択に生かす。

（4）研修での経験を、事後学習を通して振り返り共有することにより、お互いに刺激しあい意識を高めあう。

七月二十三日は午前中に東京へ新幹線で移動、午後は四つのグループに分かれベンチャー企業四社（二十九期田中優子・三十六期柏木あや・三十六期大山晋輔・三十七期中西敦士）・NHK・読売新聞・東証アローズを訪問し、仕事に関する講義や職場見学・仕事の模擬体験などをさせていただきました。目標の（3）に関するまたとない経験を積むことができました。

夜には午後七時から九時の時間帯で卒業生二十四名に東大地震研究所の会議室とセミナー室に集まってもらい、仕事に関する情報交換会を行いました。初めに卒業生に自己紹介をしてもらった後、事前に決めていたグループに分かれ卒業生と在校生数名での三十分間のグループディスカッションを三回行いました。在校生は三人の卒業生と少人数で親身な会話をすることができました。夜の部（午後七時から九時の時間帯）の活動は有志の委員中心に企画・運営していきました。目標の（1）・（2）について、卒業生との交流はかけがえのない時間になりました。生徒の感想の一部分を紹介します。

生徒A「先輩のお話で人生では立場が逆転することが何度もあるという言葉に感銘を受けました。」

生徒B「勉強するのは自分の生活や人生を楽しくする手段で、大学や就職がゴールではないという言葉に深く心を打たれました。」

中学2年12月から中学3年3月末までに来校していただいた卒業生

41期	長久善彦	財務省
25期	古本強	龍谷大学農学部教授
46期	田中英祐	元プロ野球選手・総合商社（三井物産）
41期	近森曜子	日本軽金属
42期	加藤拓馬	マル・オフィス震災復興ＮＰＯ法人
31期	隅俊之	毎日新聞記者（青森支局デスク）
41期	宮本美希	麻酔科医師（湘南鎌倉病院）
45期	田中昭次	ＪＲ東海
39期	上野忠臣	博報堂（日産に出向）
41期	宇野裕美	京都大学生態学研究センター（准教授）
25期	山田泰正	味覚糖（代表取締役社長）
25期	宮﨑光世	ヤフー（システムエンジニア）
41期	竹内雅弘	Ｐ＆Ｇ（経営・広報）
42期	大武秀稔	Ｐ＆Ｇ（研究員）
35期	安田孝弘	弁護士（主に民事）
34期	上垣孝俊	弁護士（主に刑事）
32期	内　和美	弁護士（主に女性・医療関係）
35期	山城徳之	獣医師
29期	水戸川慶太	神奈川県庁（労働組合書記長）
29期	衣笠智子	神戸大学経済学部教授
31期	高橋利郎	建築士
48期	佐藤江里子	朝日放送

高校1年1学期6月15日（土）来校していただいた卒業生

41期	山本晃将	三菱電機株式会社
25期	妻鹿直人	弁護士（ポプラ法律事務所）
45期	河合理江	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
45期	横井悠夏	ダイキン工業株式会社
41期	一本松悠	サントリー健康科学研究所
25期	大西雅也	公認会計士（あずさ監査法人）
41期	日下部淑世	株式会社めい（職住一体型シェアハウス経営）

二十四日は午前中、東大の生物系の研究室・物理系の研究室・地震研究所・史料編纂所・文学系の研究室の五か所に分かれて、それぞれの研究活動の講義や見学・研究職としての仕事や遣り甲斐などについて学びました。午後一時から三時は、医療過誤の防止が専門の医師（三十五期小坂鎮太郎）・外資系保険会社社員（三十九期久下康太朗）・東大文学部加藤陽子教授の三人の講演を分かれて聴いた後、質疑応答で締めくくりました。午後三時から五時は上野公園で国立博物館や科学博物館・美術館などの見学をしました。

夜には二十三日と同様に午後七時から九時は、東大地震研究所の会議室とセミナー室に集まってもらい、仕事に関する情報交換会を行いました。前日と同様、新鮮な雰囲気で仕事に関する情報交換ができ、在校生も満足していたようです。

二十五日は午前中、財務省・農林水産省・国土交通省・防衛省の四か所に約五十人ずつに分かれて、卒業生の職員による仕事の具体的な内容の講義や説明を受けながら、省内施設の見学などをおこないました。財務省では赤じゅうたんが敷き詰められている大臣室の前を歩いたり、財務大臣の会見室でマイクの前に立つなどの貴重な体験をしました。目標（3）に関する、またとない貴重な経験を積めました。目標（4）に関しては九月十五日の文化祭、高校一年学年展示において委員を中心としたやポスター作成や掲示、スライドショーなどで学年内の情報共有とともに活動内容を多くの来場者に知ってもらうことができました。

五十人を超える多くの卒業生の協力により目標（1）～（4）はかなりの度合いで達成できたと感じています。五十七期生には、仕事で忙しい中、協力してくれた後輩思いの卒業生に深い感謝の気持ちを込めて、これからの白陵生活をより充実したものにしてほしいと切望しています。

二学期には最後のキャリア研修として、中学三年と合同で十月二十六日（土）に卒業生十四名を招いて、仕事に関するキャリア研修会を実施しました。在校生（二学年で約四百名）は十四名の卒業生の自己紹介後、自ら希望する卒業生の仕事に関する講演を十四の部屋に分かれて聴いた後、質疑応答をおこない更に理解を深めました。

卒業生を招いてのキャリア講演や職場訪問によるキャリア研修を通して、五十七期生たちは、単に仕事内容や遣り甲斐を知っただけでなく、卒業生の生き方や価値観など教員たちが期待した以上に多くの大切なことを学んだと思います。

卒業生の方々との様々な交流は、在校生にとってかけがえのない経験であり、白陵が更に大きく飛躍する契機になると確信しています。今後も白陵生の成長のために、前向きで温かい協力を、よろしくお願いします。

＊所属等は講演当時のもの、敬称は省略しています。

7月23日-24日の夜の部（午後7時から9時）に参加していただいた卒業生

7月23日　会議室（100人）			7月23日　セミナー室（100人）		
23期	楠浩一	東京大地震研究所教授	41期	長久善彦	財務省
23期	和田勝弘	飯野システム	41期	近森曜子	日本軽金属
25期	宮﨑光世	ヤフー	41期	宮本美希	麻酔科医師
39期	上野忠臣	博報堂	41期	竹内雅弘	Ｐ＆Ｇ
44期	池本秀也	外資系製薬会社	41期	上口瑛	弁護士
45期	横井京子	味の素　研究職	41期	橋本直哉	日本生命
45期	松本佳子	弁護士	42期	加藤拓馬	震災復興NPO法人
45期	田中幸次郎	羽田空港管制官	42期	大武秀稔	Ｐ＆Ｇ
45期	玉岡遥	東京建物	42期	長谷川浩	日興証券
48期	澤莉紗子	アビームコンサル	42期	森下直紀	飯野海運
49期	井上瑞葵	アクセンチュア	49期	田中誠也	大林組

7月24日　会議室（100人）			7月24日　セミナー室（100人）		
34期	藤原健	シティックキャピタル	23期	楠浩一	東京大地震研究所教授
35期	野沢遼	ポストンコンサルティンググループ	25期	宮﨑光世	ヤフー
35期	岡部弘	裁判官	29期	姉崎和敬	防衛省
35期	谷口一平	転職活動中	29期	渡瀬薫	ライオン
35期	萩野貴信	ＩＴ企業	29期	熊谷幸典	野村総合研究所
35期	小谷瑛輔	明治大学国際日本学部	39期	久下康太朗	ガイカーペンター
35期	小坂鎮太郎	医師（練馬光が丘病院）	46期	伊藤瑞貴	NTT東日本関東病院
35期	天谷太一	パソナグループ	46期	和田薫	NTTコミュニケーションズ
36期	柏木あや	マネーフォワード	46期	段林佳江子	ＪＴ
36期	伊藤貴行	りそな銀行	46期	三村晋司	三井物産
41期	田中遼太郎	日野自動車	48期	岡千晶	食品メーカー
42期	松尾亜矢	伊藤忠商事	35期	石井博章	東大附属病院・医師
42期	加登涼子	イーレックス	41期	増田和博	デトロイトトーマツ

2学期10月26日来校していただいた卒業生

21期	檀上かおり	ＩＴコンサルタント
30期	陰山美幸	検事（神戸地方検察庁）
35期	立花良二	マッキンゼー
35期	辰巳信平	カヌーガイド、大学講師
38期	大辻俊介	税理士
39期	西木慶一郎	教育ベンチャー起業
41期	服部卓馬	損保
41期	石川瑶子	医師（神戸大学病院・腫瘍血液内科）
41期	松景裕美	システムエンジニア
42期	西尾隆太	大阪ガス
42期	藤井俊輔	川崎重工
45期	工藤祥太	気象庁
45期	河合理江	外資系製薬会社
45期	出井龍之介	関西テレビ

平成30年度 収支決算報告書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

単位／円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	10,662,755	10,662,755	0
会費収入	2,805,000	2,820,000	△15,000
終身会費	2,805,000	2,820,000	△15,000
臨時会費	0	0	0
総会費	0	0	0
会費外収入	65,000	4,494	60,506
名簿収入	10,000	3,800	6,200
広告収入	0	0	0
利息収入	5,000	694	4,306
雑収入	0	0	0
寄付金	50,000	0	50,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	13,532,755	13,487,249	45,506

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	135,000	131,405	3,595
消耗品費	20,000	10,257	9,743
印刷費	20,000	0	20,000
通信費	70,000	110,866	△40,866
支払手数料	20,000	10,282	9,718
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	1,150,000	792,614	357,386
理事会費	200,000	153,878	46,122
役員会費	850,000	638,736	211,264
委員会費	100,000	0	100,000
事業費支出	1,640,000	1,316,847	323,153
総会費	0	0	0
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	990,000	932,663	57,337
ホームページ維持費	100,000	99,792	208
卒業記念品費	350,000	215,092	134,908
慶弔費	200,000	69,300	130,700
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	270,000	270,000	0
渉外費支出	110,000	0	110,000
予備費支出	100,000	0	100,000
寄付金	0	0	0
小計	3,405,000	2,510,866	894,134
総会積立金	200,000	200,000	0
学校寄付積立金	500,000	500,000	0
次年度繰越金	9,427,755	10,276,383	△848,628
合計	13,532,755	13,487,249	45,506

平成30年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
30. 6. 22	理事会	30.11.24	役員会（忘年会）
30. 6. 30	東京白陵高校同窓会	31. 1.31	理事会
30. 7. 14	定例役員会	31. 2.11	第54期生卒業式
30. 9. 28	理事会	31. 2.16	三会合同正副会長会
30.10.13･14	役員親睦旅行	31. 3.	会報第38号発行

白陵会News

白陵生の活躍

二〇一九年八月

日本生物学オリンピック
銅賞受賞　後藤優奈さん（高二）

化学グランプリ二〇一九
金賞受賞　後藤優奈さん（高二）
銅賞受賞　鎌谷一生君（高二）

九月

日本魚類学会年会中学生・高校生研究発表会
最優秀賞受賞　板谷穂香さん（高二）
西尾彩里さん（中三）

数学甲子園二〇一九
第七位　鍵本茉奈さん（高二）
藤平理乃さん（高二）
濱名信之介君（高二）

十二月

第七回科学の甲子園ジュニア全国大会
第十位入賞
兵庫県代表チームの一員として
安積知史君（中二）
森田有亮君（中二）
立宅優来君（中二）

第六十三回全国学芸サイエンスコンクール
サイエンス分野　人文科学研究部門
入選　北村哲久君（高二）
柴田彩加さん（高二）

第三十四回全国高等学校文芸コンクール
文芸評論部門　優秀賞　及び
短歌部門　優良賞受賞
田中之葉さん（高二）
同　詩部門　入選　志摩光咲さん（高一）
同　俳句部門　入選　星野遥香さん（高二）

二〇二〇年一月

第十回富士正晴全国高等学校文芸誌賞
優秀賞受賞　文芸部部誌『紅炎』
また県大会などでは、将棋部が第三十二回高等学校竜王戦大会兵庫県予選でA級五位、B級優勝し、第三十九回近畿高等学校総合文化祭京都大会に出場、文部科学大臣杯第十五回小中学校将棋団体戦兵庫県予選でも優勝し、西日本大会に出場。

放送部も第四十三回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門アナウンス小部門で高一大島璃子さんが金賞を受賞するなど優れた成績を各部・個人で収めています。

白陵会物故者

佐藤誠二氏（旧職員）
令和元年十一月　逝去

心よりご冥福をお祈りいたします。

転退職教職員紹介

平成三十一年三月

長谷川陽司先生（数学）
平成五年四月～平成三十一年三月

ウラン（山田）綾子先生（英語）
平成二十六年四月～平成三十一年三月

川邊麻里子先生（家庭科）
平成二十四年十月～平成三十一年三月

三宅拓也先生（社会）
平成二十九年四月～平成三十一年三月

福永奈美職員（事務）
平成二十九年四月～平成三十一年三月

編集後記

世界はみんなのこころで決まる
世界はみんなのこころで変わる
谷川俊太郎さんの作品集『すこやかに　おだやかに　しなやかに』に収録された作品の一節です。新型コロナウイルスで世界が混乱する中、先の見えない状態が続いています。このような時だからこそ、人々の「こころ」の在り方が大切になっていくのかもしれません。母校も四月に大きな変動を迎えます。どのような「白陵」が生み出されていくのか、それを決めるのも白陵に関わる全ての「こころ」です。どうか皆様の「こころ」をお寄せください。（T）